

## 2. 文学部・人文科学研究院

(1) 文学部・人文科学研究院の研究目的と特徴	・・・	2-2
(2) 「研究の水準」の分析	・・・・・・・・・・	2-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	・・・・・・・・・・	2-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	・・・・・・・・・・	2-7
【参考】データ分析集 指標一覧	・・・・・・・・・・	2-9

## (1) 文学部・人文科学研究院の研究目的と特徴

本研究院の研究目的は、次のとおりである。

1. 人間の学としての人文科学の確立
2. 原典の精確で豊かな理解、理論と実証の高度な融合
3. 国際レベルの研究の推進
4. アジア研究の深化

本研究院における人文学の特徴は、次のとおりである。

人文科学研究院は、哲学・歴史学・文学という、人文科学の伝統を重んじた3部門から構成され、その下に19の講座が配置されている。本研究院でなされる人文学の研究の特徴は以下のものである。

1. *philosophia* (フィロソフィア、知への愛) と *philologia* (フィロロギア、言葉への愛) の精神に基づくフマニタスの学 (人間の学、人間の研究)。哲学、歴史学、言語・文学、人間科学の諸学問分野は対象や方法は異なれ、人間という中心的問題に真っ向から取り組むという姿勢において根本はひとつである。大学には文系・理系を問わず多数の学部と学問領域が存在するが、人間への関心を中心に置くという点で、人文学は大学の諸学問の中核をなす。
2. 言葉の重視。文系・理系を問わずいかなる学問分野であれ、言葉を何らかの手段として用いない学問領域はない。しかし言葉を直接の対象とし、言葉の批判的検証を主たる課題とする領域は人文学を措いて他にない。哲学思想であれ、文学作品であれ、歴史史料であれ、それは文字となった言語テキストであって、人文学はいわば言語テキストの中に人間の営みを探る学である。むしろ美術史や考古学や地理学や社会学のようにフィールドを重んずる分野もあり、実験心理学のように実験を主たる手段とする分野もある。しかしそれらの分野を含めた諸学問分野が、言葉への関心を核としてひとつに結びついているのが人文学である。その意味で人文学においては日本語の精確な運用能力と外国語の豊富な知識が決定的な意味を持っている。
3. 批判精神に基づく批判の学。過去のものであれ現在のものであれ、あらゆる解釈や通念を「果たして本当にそうであるか」と疑い、それを新たに問い直し、さまざまな方法にのっとり批判的・実証的に検証し、自らの思索を通じて新たな筋道と解釈に至るといふこと、そしてそれを通じて対象の新たな人間的意義を見出すといふこと、そこに人文学の真髄の一つがある。
4. また、3. のような共通の特徴を基盤としながら、哲学、歴史学、言語・文学、人間科学のあらゆる領域にまたがって、実に多種多様な専門分野が一堂に会しているのが人文学の魅力であり、特徴でもある。各専門分野がそれぞれにしっかりした核を持ち、同時にあらゆる専門分野に開かれていて、全体として一種の普遍的人間学を形成していることこそ、他では見られない人文学の一大特色である。  
(以上、人文科学研究院ホームページより抜粋)

## (2) 「研究の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

#### <必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料  
(別添資料 7302-i1-1 文学部・人文科学研究院 教員・研究員等人数)
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料  
(別添資料 7302-i1-2 文学部・人文科学研究院 本務教員年齢構成)
- ・ 指標番号 11 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i1-8)

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究院は、中国・韓国・連合王国・アメリカの大学・研究機関とコンソーシアム協定を締結し、幅広い研究交流を展開し、また大学院生の海外留学を推進してきた。特に、アジアにおける日本研究の一大拠点として、広人文学講座が中心となって、海外から多くの研究者や留学生を受け入れ、国際的な共同研究を進めている。

(別添資料 7302-i1-3 協定校一覧)

(別添資料 7302-i1-4 留学生数 2019年5月1日現在)

さらに、歴史学・哲学・文学・言語学と多岐にわたる人文学研究を包括的かつ有機的に関連させるべく、本学が推進する世界トップレベル研究者招へいプログラム (Progress100: 人社系学際融合リサーチハブ形成型) を積極的に活用し、領域横断的なシンポジウムを多数開催してきた。このように活発にして生産的な人的交流は、構成員同士の親睦に力を注いできた本研究院の長い伝統の成果である。

[1.1]

(別添資料 7302-i1-5 人文科学研究院での国際シンポジウム等一覧)

(別添資料 7302-i1-6 国際事業報告書等)

(別添資料 7302-i1-7 国際交流イベント一覧の web page)

#### <必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料  
(別添資料 7302-i2-1 法令順守規程 (適正な研究活動に関する規定))
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料  
(別添資料 7302-i2-2 九州大学大学院人文科学府自己点検・評価委員会内規)  
(別添資料 7302-i2-3 教員活動評価の実施について (基本方針))

## 九州大学文学部・人文科学研究院 研究活動の状況

- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）  
（別添資料 7302-i2-4 博士の学位授与数（課程博士のみ））  
※法人独自資料添付

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- アジア・日本研究を中心に、海外の諸研究機関との国際共同研究を推進し、その研究成果の公表を国内外の学会を通して積極的に行うことにより、我が国の社会・文化に関する国際社会の理解に寄与することを目指している。さらに、九州の地理的長所を十分に活かした研究により、地域社会や国の文化の発展に貢献したい。このように先端的な研究を進める一方、多様な諸研究の成果を統合し、そうした研究成果を公開講座・セミナー等に積極的に活用して、その社会への還元を図っている。

上記の方針に基づく国際的な共同研究として、本学でおこなわれた代表的な実績をあげると、文物の越境移動の観点から美術作品の歴史的役割を論じた国際シンポジウム「徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」（2018年6月開催、海外研究者138名を含む315名が参加）、人の移動が文化に与えた影響を多方面から論じた国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」（2018年9月開催、海外研究者68名を含む113名が参加）がある。このほか、主に欧米より研究者を招聘しての日本の文学・宗教・芸術等に関するワークショップを、2016年から2020年にかけて約30回にわたって開催している。

社会連携にかかる実績としては、朝日カルチャーセンターとの提携による、ほぼ全ての部局教員の定期的に担当する公開講座、および付設の言語運用総合研究センターにおいて言語障害などへの実践的内容を含めて実施されるセミナー・公開講座、また歴史学部門の教員が比較社会文化研究院の歴史学系教員と共同で定期開催している、中学・高校教員を対象とした歴史学・歴史教育セミナーなどを通じて、高度専門的な職業人や一般社会人への学知還元を推進している。[2.1]

（別添資料 7302-i2-5 九州大学大学院人文科学研究院 外部評価報告書、91-93頁、104-118頁）

### <必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料（人文科学系）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7302-i3-1）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

(特になし)

**<必須記載項目4 研究資金>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 指標番号 25～28 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-1)
- ・ 指標番号 29～30 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-2)
- ・ 指標番号 31～34 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-3)
- ・ 指標番号 35～38 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-4)
- ・ 指標番号 39～40 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-5)
- ・ 指標番号 43～44 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-6)
- ・ 指標番号 45～46 (データ分析集) ※補助資料あり (別添資料 7302-i4-7)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

(特になし)

**<選択記載項目B 国際的な連携による研究活動>**

**【基本的な記載事項】**

(特になし)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 本部署で現在最も力を入れているのが、人文学国際教育研究拠点の整備事業である。人文科学研究院においては本学が独自に設けている教育研究改革支援制度(平成29年度大学改革活性化制度および国への予算申請(平成31年度/令和元年度概算要求)により同拠点の整備事業を展開している。これは、海外出身の日本学研究者5名による国際日本学の大学院講座(広人文学講座)を含む人文科学研究院全体が実施するものであり、現状の人文科学研究院・人文科学府・文学部における代表的な改革事業である。九州大学を日本学・日本研究の国際的な教育・研究拠点とするため、①九州大学の総力を挙げて、アジアや欧米の日本学界との国際的な共同研究ネットワークを形成し、②日本人学生及び外国人留学生をグローバルに活躍する日本学・日本研究の国際的研究者・実務家として養成する。これによって③国際的に一体化した新たな日本学を生み出し新分野の開拓に結びつけるとともに、地域の創生にも貢献を行うものである。これは、本研究院の研究

## 九州大学文学部・人文科学研究院 研究活動の状況

目的（2－2頁）のうち、とりわけ3、4に即した取り組みである。

この拠点においては、海外のトップレベルの日本学研究者を招致して、日本学研究／日本・アジア交流研究の国際的なネットワークを、欧米・アジアの各大学・学界とともに形成する。同時に、日本国内の研究者（大学院生を含む）を海外に派遣して、英語による日本学研究の国際的な発信を行い、その成果や問題関心を海外の広範な学界と共有する。これによって、「分野横断的な視野と広い問題関心の中で研究を行う海外の日本学」と、「圧倒的な学問的蓄積の上にきわめて深化された研究関心や成果をもつ日本の日本学」を結びつけ、両者の長所を生かした新しい日本学を生み出し、九州大学をその拠点とする。

グローバル人材の育成・教育面においては、人文科学府において、広人文学講座を中心とした関連各講座が、英語による日本学研究／アジア・日本交流研究の人材育成に取り組んでいる。そして日本人学生、外国人留学生の双方を対象として、国際的な日本学研究者の育成や、日本学を身につけ、それによってグローバルな活躍ができる実務者の育成を開始している。国際的な日本学教育を通常の大学院プログラムとして日本国内で恒常的に実施している点は、九州大学のきわめてユニークな強みであり、これを研究とリンクさせ、研究と教育の相互補完的な効果を目指すことによって、九州大学のビジョンを実現することを目標としている。[B.2]

（別添資料 7302-iB-1 人文学国際教育研究拠点の概要）

（（再掲）別添資料 7302-i1-5 人文科学研究院での国際シンポジウム等一覧）

（（再掲）別添資料 7302-i1-6 国際事業報告書等）

（（再掲）別添資料 7302-i1-7 国際交流イベント一覧の web page）

（（再掲）別添資料 7302-i2-5 九州大学大学院人文科学研究院外部評価報告書 91-93 頁）

- 井出誠之輔教授を中心にすすめられた進められた「大徳寺伝来五百羅漢図の研究」では、フリーア美術館やボストン美術館（いずれもアメリカ合衆国）といった国外の所蔵先と共同で銘文調査等を実施した。それら研究成果は、Progress100を活用した国際シンポジウム「A Comprehensive Look: The Cultural Biography of the Daitokuji Five Hundred Lohan」（2018年6月）として公表された。同じく同じ美術史分野ではシンシア・ボーゲル教授を中心として、国際シンポジウム「Cultural Circulation in Asia: Narrative, Human, and visual Flows」（2018年2月）が開催された。また久保智之教授が中心となって国際シンポジウム「New Terrains in Asian Humanities」（2018年9月）が開催されている。

[B.1]

（（再掲）別添資料 7302-i1-5 人文科学研究院での国際シンポジウム等一覧）

（（再掲）別添資料 7302-i1-6 国際事業報告書等）

（（再掲）別添資料 7302-i1-7 国際交流イベント一覧の web page）

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

### <必須記載項目1 研究業績>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

本学部・研究院は、①人間の学としての人文科学の確立、②原典の精確で豊かな理解、理論と実証の高度な融合、③国際レベルの研究の推進、④アジア研究の深化、という研究目的を有しており、アジア研究および国際的視点に立った日本研究を組織的に推進している点に特色がある。したがって、こうした特色を有している研究のうち、国際的に評価の高い研究が重要であると考え、学会で高い権威がある賞を受賞した研究、国内外において最高の水準にある学術雑誌に掲載された論文や、書評等で高い評価の得られた著書を中心に選定している。

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文学分野では、多くの場合、国単位・エリア単位の活動が学会の主軸をなすが、本部局の教員は、それらの主要な専門学会においてくりかえし学術賞の受賞実績をあげている（業績番号1、4、7、10）。加えて、より広い分野を総合した権威ある学術賞について受賞実績をあげていることは特筆に値する（業績番号2、10）。また一般教養書の執筆が学知の社会還元の見地から高く評価されて受賞し（業績番号3、6）、新聞等のマスコミ媒体で多々紹介されていることも、本部局の研究特性に照らして重要な成果である。以下に主要な研究業績を3点摘記する。

宮本一夫教授が推進する「東アジアにおける農耕社会の拡散・受容と牧畜社会の展開に関する研究」（業績番号1）は、東アジアの先史社会における農耕の発展を牧畜社会との関わりから捉え、日本列島を含む東北アジアの農耕社会の歴史的展開を、緻密な考古学的実証にもとづきモデル化したものである。その体系的性と独創性が高く評価され、第12回九州考古学会賞（2018）、第9回日本考古学協会大賞（2019）をダブル受賞した。国際的なインパクトも大きく、南京大学（2018）、オックスフォード大学（2019）、マックス・プランク研究所（2019）で招待講演をおこない、2018年にはAn International Honorary Member of the American Academy of Arts and Sciencesに選出された。

井手誠之輔教授による「大徳寺伝来五百羅漢図を中心とする作品誌の観点による美術史的研究」（業績番号3）は、中国・韓国といった生産国に引きつけられて属性認識されがちな仏画について、時間軸・空間軸のなかでのモノとしての来歴を追跡することで、それがおかれた様々な時と場の文脈のなかで制作者や制作地との関係性を超えて展開される美術作品の多様な社会的位置づけを明らかにした。対象となる中国・朝鮮由来の仏画自体、日本・中国・韓国および欧米の様々な機関や個人に所蔵されており、その調査活動は文字通りワールドワイドに展開される。成果の一端は2018年に国際シンポジウム「A Comprehensive Look: The

## 九州大学文学部・人文科学研究院 研究成果の状況

Cultural Biography of the Daitokuji Five Hundred Lohan」として結実し、その刊行物も出版予定である。また同教授が責任編集者の一人である『アジア仏教美術論集』が、東アジア出版人会議の2019年度「パジュ・ブック・アワード」企画賞を受賞した。

下地理則准教授の「南琉球宮古語伊良部島方言の総合的記述研究」（業績番号10）は、消滅危機言語としての南琉球宮古語伊良部島方言について記述文法書を作成し、かつこれを一般言語理論に応用した独創的な試みである。その調査能力、分析・構想力が高く評価され、若手研究者にして日本の言語学界における著名な学術賞（第47回金田一京助博士記念賞）を受賞し、のみならず、2019年度の日本学術振興会賞を人文学分野から唯一人受賞した。その成果は日本語で書かれた著書のみならず、英書としても刊行されており、日本の一方言に関する知見を言語学界の共有財産として世界にむけて発信した点でも注目される。



## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
2. 教職員データ	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数	
46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数	